

学校教育目標		高い志をもち 夢の実現に向けて 自分らしく 他者とともに生きる児童の育成											
経営理念	使命・存在意義	学校に関わる人が幸せになるための仕組みになる。人が輝き、心が動く学校を創る。大切な人に誇れる学校であり続ける。											
	中心価値・行動規範	Act Boldly ■大胆に行動する Build Equal Trust ■信頼し、信頼される Create the First ■はじめてをつくる Do a Professional Work ■プロフェッショナルであれ Express as a Team ■チームとして取り組む											
現状と今年度の重点		<p>本校は、「広島県小学校教科担任制推進事業」「広島県小・中・義務教育学校生徒指導サポート実践事業」の指定を受け、実践的な研究を進めてきた。学習指導は、TKFモデル「T・創る」「K・語る」「F・振り返る」「S・焦点化する」をベースに、第4学年から教科担任制を実施することで、児童の思考力・表現力は高まり、教科や特別活動等の話し合い活動に好影響を与えている。また、生徒指導は、中間的集団を承認する活動や、特別活動等で異学年の交流やエージェンシーを育てる取組により、主体性や協働性が育てられている。さらに、集団が苦手な児童や学級になじみにくい児童に寄り、タブレットを活用した学校生活の計画や授業、保健室・サポートルームの支援により、児童個々の状況に応じた取組を進めている。働き方改革は、衛生委員会等で毎月業務改善について検討し、分掌部では少人数で継続的な課題に対応するなど、コアチームで取組を進めている。教職員のエンゲージメントは維持傾向で、在校時間は低減傾向である。しかし、学習指導では、対話的な学びに課題があり、生徒指導では、不登校児童が増加傾向であり学校で生活しづらい児童への相談支援体制が必要である。教職員においては、児童と教職員の共同エージェンシーを高めることが重要である。働き方では、学校経営に参画し文化と仕組みを創るために本音で共創し、自他が変革する組織開発を進めることが未来の働き方に繋がる。令和6年度の成果と課題を踏まえ、本年度は5点を重点として学校経営を進める。</p> <p>(1) 研究科目を「ことば」「理・数」「探究」「インクループ※5」の4領域とし、全教職員の職能成長を図る (2) 学校で生活しづらい児童・保護者への相談機能を強化し、未然予防と早期対応を行う支援体制を創る (3) 生活科・総合的な学習のカリキュラムを再編し、地域と繋がり地域課題に向き合う探究型の学習を進める (4) 学校規模のメリットと校舎改築を見据えて、異年齢交流や帯学年交流を活性化し共同エージェンシーを育てる (5) チームの協働的な業務の遂行により、教職員の学校運営に参画し個々の職能成長と組織の成熟を図る</p>											
中期経営目標	短期経営目標	担当	達成目標	成果指標(効果を見取る目安)	自己評価				取組の達成状況および成果と課題(○)	来年に向けて(◆)	評価 適正○ 不適正×	ご意見	
					9月		1月						
達成度	達成度	評価	達成度	評価	達成度	評価	達成度	評価					
確かな学力	変革型・グラフィックファシリテーションとICT機器による授業改善、概念型の探究学習等を通して、基礎学力の定着と活用する力の向上を図る。	授業の充実事業「基本」	水平型と垂直型のファシリテーションを行き来し、見える化により対話の場面をデザインし、児童の表現力を高める。	・児童アンケート「ペアやグループ、全体で対話すると、考えがもたれ、変化したり、さらによりよくなったりしますか」の肯定的回答率を80%以上にする	80.0	80.1	100.0	A	83.2	104.0	A	○ 前年度同様、インベションシートを活用して、毎月自分の授業について振り返るというサイクルができた。1学期は、「III 話し合いのコツ」に関する授業の基本の「基」の項目の中で振り返り、2学期以降は、「IV ファシリテーション」「V ICTの活用」の項目の中で振り返りを行った。 ○夏休みの研修で、理科や算数科の先行オーガナイザー(単元計画を示すなど)の実践を共有した。校内研修などでファシリテーターやグラフィックデザイナーの役割を全教職員が経験した。 ○児童アンケート「ICT機器などで友達と自分の考えを比べ、それをもとに自分の考えをよりよくすることができたか」については、目標値(肯定的回答率)を達成することができた。ロイノートの提出箱で友達の意見や作品を見たり、電子黒板に写された意見を自分で比較したりする機会を教師が意図的に作ることが要因だと考えられる。 ◆スプレッドシートの活用に関しては、改善が必要であるため、次年度は項目を振り返る研修や交流の時間を確保し、活用していく。	・3つの成果指標共に達成度が上がり、目標が良く達成できている。特に、ICT機器を活用し、考えを比べ考えをよりよくすることができていた。今後も児童の表現力を高める取組の継続をお願いします。 ・児童の皆さんが互いに相手のことを考えながら、多様な方法でつながり合う事が出来ているように思います。自然な習慣になればベストです。 ・基礎学力を大切にし、聞く力、会話、表現力を大切にされている。児童も教師も経験し、学ばれているのが素晴らしいと思います。 ・ICT機器の活用は引き続きお願いしたいです。と、同時にアナログ回帰の運動は常に起こりますので、模造紙や壁新聞を手書き、線引きする機会もあれば良いと思いました。引き続きお願いします。
				・単元末テスト「思考力・判断力・表現力」の達成率達成率国語80%以上、算数70%以上、理科80%以上、社会80%以上の児童を85%以上にする。前期後期の2回検証	国語 80.0 算数 70.0 理科 80.0 社会 80.0	国語 79.8 算数 63.5 理科 70.3 社会 88.3	国語 99.8 算数 90.7 理科 87.9 社会 110.4	国語 77.1 算数 57.3 理科 78.3 社会 83.8	国語 96.3 算数 81.8 理科 97.8 社会 104.7	国語 B 算数 B 理科 B 社会 A	○本年度は、TKFモデルによる授業づくりを柱に、学年部会および教科部会間で共有・改善を継続して行った。国語科・算数科・理科・社会科の授業づくり研修を年間12回実施し、思考力・判断力・表現力の育成を図った。 ○単元末テストの結果からは、理科および社会科において研究の成果が見られた。国語科は前年度より0.3ポイント低下したものの、過年度と比較すると向上傾向にあり、一定の成果が認められる。一方、算数科においては課題が見られ、特に2～5年生での定着に課題が残った。 ○三次市学力到達度検査では、国語科は全学年で市平均を上回った。算数科・理科・社会科では市平均を下回る学年もあったが、過去3年間の推移を見ると、全体として学力は着実に向上している。 ○教科ごとに教材研究を行い、「教材の特長シート」を作成した。単元開始前の教材研究や指導のポイント確認、児童の習得の予測、必要な教員の検討、目指す児童像の明確化などに活用した。しかし、活用状況には教員間で差が見られ、「十分に活用できていない」との課題も明らかになった。 ○また、AIを各学年の発達段階に応じて活用し、教師の指導の可視化や児童の思考の支援、変化を図った。 ◆次年度は、授業づくりにおいては、既習の見方・考え方を生かせる授業展開を工夫し、学びの連続性を意識した指導を行う。あわせて、すべての児童が自分の考えをもてる課題設定を行い、それを表明する機会を意図的に確保することで、主体的・対話的に学びを一旦充実させる。さらに、自分の学びや自己課題を自覚させたために、見方・考え方を整理した振り返りを通して、振り返りを通して、児童が自分の思考の深まりや成長を実感できるよう指導を工夫する。「教材の特長シート」については、活用方法を具体化し、校内研修等で実践事例を共有することで、全教職員が効果的に活用できる体制を整える。		
				・児童アンケート「10日市小学校の子供達は友だちが楽しくなることを考えたり行動したりすることができていますか」の肯定的回答率を80%以上にする。 ・児童アンケート「学校に行きたくないと思うことがありますか」の否定的回答率を75%以上にする。 ・児童アンケート「友達とは自分のいい所を認めてくれないか」「楽しく学校で生活できていますか」「自分にはいい所があると思いますか」「安心して学校で生活できていますか」の肯定的回答率の平均を80%以上にする。	80.0	90.1	112.6	A	93.9	117.3	A		
・児童アンケート「誰かのためにがんばってよかったな、と思うことがある」の肯定的回答率を学期毎に検証	90.0	85.1	94.5	B	88.6	98.4	B	○各委員会が学年やクラスの枠を外した取組ができた。十小子ども文化発表会を成功させるために自分で目標を設定し振り返りながら責任をもって行動した。高学年が「学習先生」となり他学年の学習をサポートしたことで学習意欲が高まる児童もいた。 ○後期委員会では、自伸会とスケジュールの調整を行いながら企画内容を進めていくことができた。 ○他学年と関わることに抵抗があるのか、自分から話したり、行動したりすることが苦手な児童もいる。自分たちが企画した内容を実行するためのコミュニケーション能力が低い児童もいる。 ◆委員会の企画や異学年の学習交流などを通して、自分のためだけでなく、他者のために動くことを通じてコミュニケーションを高めていく。 ◆高学年による他学年への学習サポートをもっと広げていく。	・3つの成果指標BBAとの評価で、目標を達成できている。「誰かのために、・・・」「委員会・・・やりがいがある」の肯定的回答が多く、意欲的に取り組んでいる姿が分かる。他学年(異学年)との交流でエージェンシーを育てている。 ・積極的に関わり関わる事が得意な児童とそうでない児童の差があるのは普通だと思いますが、それが楽しいと思うようになる工夫が必要だと思います。 ・自分の工夫を全体で考える、生かすことが取り組まれているのが大変良いと思います。 ・学校外での活動は、若干の「はみだし」を許容できるムードが必要です。お若い先生方にも、はみ出しを許容できるムードは有るでしょうか。既に社会的な成果を上げられた方に、適切なはみ出しについて率先していただきたいです。				
・児童アンケート「休時間以外で遊んだりお家でスポーツや外で遊んだりして、体を動かすことに親んでいる。」の肯定的回答率を80%以上にする。 ・1回目の記録を上回った児童の割合を①持久走(80%)②体力テスト(60%)以上にする。 ・生活習慣の改善に向けた指導を学期に1回行う。(100%)	80.0	80.4			78.7			○体育安全委員会と自伸会が、異学年交流を兼ねて「運動不足解消スポーツ大会」を企画して、多くの児童が参加し、楽しく体を動かすことができた。寒くなり、外に出る機会が減っているため、企画や授業を通して体づくりをする必要がある。児童が楽しみながら授業や休時間中に体力づくりができるように、教職員も授業改善や体力づくり研修を継続していく。 ○体力テストを実施し、1回目の記録を上回った児童の割合は「上体起こし」52%「握力」69%「ソフトボール投げ」62%となった。各学年で課題を明かにし、第2回の測定に向けて、体育の授業等で改善に取り組んだ。持久走については、記録向上児童は51%となった。低学年は初めての持久走で、意欲的に取り組み、記録向上児童が多かった。しかし、学年が上がると、意欲の低下が見られ、記録も向上しなかった。 ◆持久走について、児童が楽しく取り組めるように、走る周数を全学年3周とし、学年が上がることによって記録の向上を実感しやすいようにする。また、異学年で実施するなど、児童が楽しく、意欲的に取り組める工夫をする。 ○栄養教諭を中心に食育の授業を全学年実施した。生活リズムの課題にも、各クラスの児童に応じた改善にむけた指導を実施した。 ◆生活リズムの改善にむけて、統一した指導を実施する。		・2つの成果指標とも数値上ではあまり効果が出ていない。そこを改善する取り組み(楽しく意欲的に取り組める工夫)をお願いします。評価が1つだけだが、健やかな体の項目も重視してほしい。(少なくとも2から3項目)短期目標も一つです。指導を実施したかだけでは効果が分からない。 ・家庭での運動機会が減っている環境は改善しなければと思いますが、現状は難しい状況です。基礎体力をつけるための工夫を全体で考える必要があると思います。 ・元気が一番、よく食べ、よく遊び、楽しく学ぶ、ライフデザインが常に考えられていると思います。 ・(私自身も体育が苦手な子だったので)体育科以外の教科を屋外で実施して、教室の外へ出る習慣を付けてほしいかがでしょうか。			
・教職員アンケートの肯定的回答率を85%以上にする。 ①エンゲージメントに係る9項目 ②「自分はチームワーキングに計画的に取り組み、本音で共創し学校経営に参画しようとしている」 ③「自分は、働き方の課題を見直し、自らの働き方を変えようとしている」		① 103% 88.2 ② 98% 83.9 ③ 80.6	100%	A	① 102% 87% ② 102% 76.7 ③ 86.7	A	○エンゲージメントに係る9項目のうち7項目で肯定的回答が85%以上となった。特に、「過度なストレスや疲労を感じていない」の項目は57.9%から74.3%と大幅に向上した。時間外勤務については、前年度の目標を概ね達成し、さらに平均約20時間前後と減少した。児童と向き合う時間についても、確保されていると感じている数は88%と向上している。ストレスを感じている割合は依然として高いが、生徒指導や保護者対応等、児童の安全や安心を維持するための責任感や緊張感は維持しつつ、心理的な安全性を確保し、持続可能な働き方を実現する必要がある。 ○毎月の衛生委員会やインベションシートを中心として、業務改善のアイデアを「10小Tips」として蓄積していった。挙げられた意見の中で、9割近くは実現することができた。事業や分掌へのチームワーキングに係る項目は目標値を下回っているが、業務改善を実感できている教職員は100%で、組織機能の成熟や対話を共有した学校運営についても9割以上の肯定的評価となった。 ◆これまで以上に自己研修、教材研究等の時間と休憩時間を確実に確保し、業務負担の質的変化と精神的なゆとりを生み出していく。 ◆管理職の1on1の面談等で職能成長を後押しし、職員間の支援を拡げ同僚性も高めることで心理的安全性の土台となる組織風土を醸成していく。 ◆事業ミーティングの見学や交流により他事業の進捗状況や取組を自分事として捉える仕組みをつくり、実効性のある業務推進をめざしていく。	・3つの成果指標ABAとの評価で目標を良く達成できている。教職員のエンゲージメントが高く、学校・児童のために活躍を蜜にしている。信頼される学校の評価としては教職員のアンケートだけでは弱いと考える。 ・教職員の皆さんの本気さや楽しさや学校が児童にも伝染していきます。地域や企業と一緒に自分事で進めていければと思います。 ・チームワーキング、建設的な意見交換が常に考えられているのが素晴らしいと思います。 ・先生方の働き方の改善は、もっともっと進めてください。同時に、先生方のアンケート結果はKPI(重要業績評価指標)であり、KGI(重要目標達成指標)としては、やはり児童のアンケートと成績であると思います。車の両輪として、益々の精進をお願いします。					
・児童アンケートの肯定的回答率を80%以上にする。 ①働いている人の思いや願いについて考えることができるか ②今回の学習が、将来の自分について考えるきっかけになりましたか ③「社会に関わった教育課程」をもとに各学年、年2回以上、深い学びの体験を実施する。	80.0	① 95.0 ② 86.5 計 90.7	100.0		① 100% ② 98% 計 99% 83%	B	○社会に関わった教育課程をもとに、年間で1年生1回、2年生4回、3年生2回、4年生3回、5年生3回、6年生2回、地域の方や施設などでの体験的学習を行った。本年度総合的な学習の時間のカリキュラムを修正したため、内容に関わる新規のものについては、各学年と連携しながらコーディネートして行うことができた。 ○事業部としては、ゲストティーチャー・招聘のコーディネートや保護者の授業サポートの取組支援を中心に行った。特に6年生の総合的な学習の時間では、地域の産業等に尽力されている方のみならず、三次で今後授業を展開される企業の方にも来ていただき、学習を体験できた。事業部独自でとったアンケートから、事業所や企業の方も、自分の関わりが児童の役に立ったと肯定的に評価された方の数値が高く、参加していただいたことでの相互的な深まりが見られた。 ○実施後の児童アンケートでは、中間評価に比べ、どちらのアンケート項目も肯定的評価が伸び、高い数値となった。継続的に学習を進めていったことで、働くこと、将来の自分や地域のことについて具体的に考えるきっかけとなった。 ◆体験的な学習は他者との対話が前提となるため、本質的な問いや即興的な質問ができるよう以下学年の頃から継続して取り組んでいくことで、課題に迫り、解決案を提案したりできるようにする必要がある。 ○事業部としては、児童の期待や学習内容に応じた体験を確保できるように、ネットワークを広げたい。		・アンケートの結果、達成度が①も②もあがっているが、なぜか達成度が下がっている。(項目を2つに分けては)深い学びの体験を実施するの項目で、実施したかどうかでは効果はわからない。体験を実施して意欲的に交流した児童は何%とすれば、地域住民との交流で近くのおいちゃんやおばあちゃんの触れ合いを望む。(遠くの人やお店との交流より前段である)。 ・十日市中学校区のCSはようやく形が見えてきたように思いますが、小中中学校舎建設を機会に繋がりを深めるよう情報交換を蜜にして頑張らしましょう！管理職の負担が多いように思います。 ・学校と地域社会と共に、それぞれに協力し、ネットワーク広く児童の心身ともに健全育成がなされている。校長先生、教頭先生、諸先生方が元気で笑顔も良く素晴らしいと思います。児童も元氣、笑顔が良いのが素晴らしいと思います。 ・校外の体験やゲストティーチャーの調整は、先生方の負担にならない範囲で十分だと思います。家庭で教育、経験すべき事の全てを義務教育が肩代わりすれば、先生方の成り手が増えません。				